

妊娠中に注意したい感染症について

妊娠中の女性が感染症に罹るとお腹の赤ちゃんに何らかの影響(流早産や先天疾患、発育遅延など)が出る事があります。中でも深刻な影響を及ぼす可能性があるものとして

Toxoplasma(トキソプラズマ)

Others(梅毒等)

Rubella(風疹)

Cytomegalo(サイトメガロ)

Herpes(ヘルペス)

これらの頭文字をとって
“TORCH(トーチ)症候群”と呼ばれています。



妊娠中に注意したい感染症について

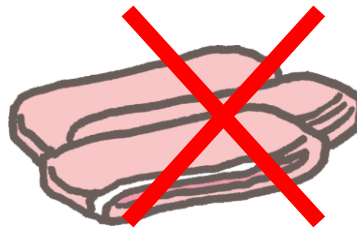
●トキソプラズマ感染

トキソプラズマは原虫(寄生虫)感染で、動物(主にネコ)との接触、生肉、ガーデニングなどの土いじりなどで感染します。

通常は感染しても症状はなく全く問題がありませんが、妊娠中に初めて感染するとお腹の赤ちゃんに感染し、流産や胎児水頭症などの原因となる事があります。



動物との接触



生肉



土いじり

●梅毒

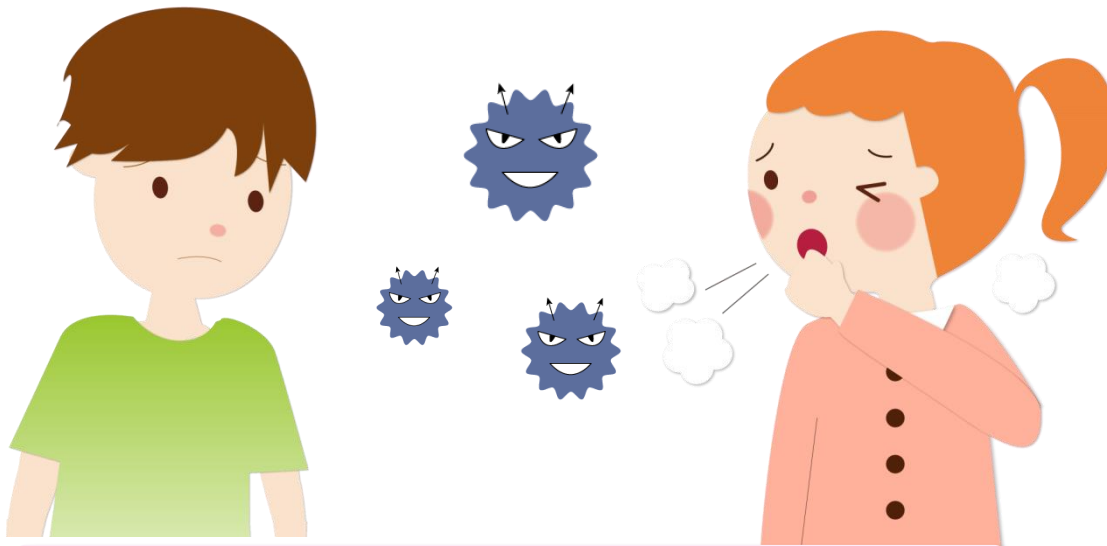
母子保健法で妊娠中に検査を行う事を定められた感染症です。

妊娠中の感染でお腹の赤ちゃんに感染する事がありますが、早期発見の場合は投薬治療が有効です。

妊娠中に注意したい感染症について

●風疹

風疹は唾液などの飛沫で感染する病気です。妊娠中(特に妊娠初期)の感染でお腹の赤ちゃんに先天性の異常を及ぼす事があります。
ほとんどの人は予防接種を受けているため免疫がありますが、最近では免疫のない人が増え、風疹が流行しています。
感染したことがなく予防接種を受けていない人は、妊娠前の予防接種およびご主人(パートナー)の予防接種もおすすめしています。



飛沫感染



予防接種

● サイトメガロウイルス

以前に比べ最近では、妊娠中に初めて感染するケースがしばしば見られるようになったと言われてしています。

上のお子さんから感染する事が多く、唾液や尿が原因になる事が多いようです。ですから上のお子さんのおむつ交換時などの後には十分な手洗いやうがい、消毒を徹底する事が肝要です。



おむつ
替え

尿・便



食事
介助

唾液

● ヘルペス

お腹の赤ちゃんに感染が及ぶ事はまれですが、出産時に産道で感染してしまう事があります。

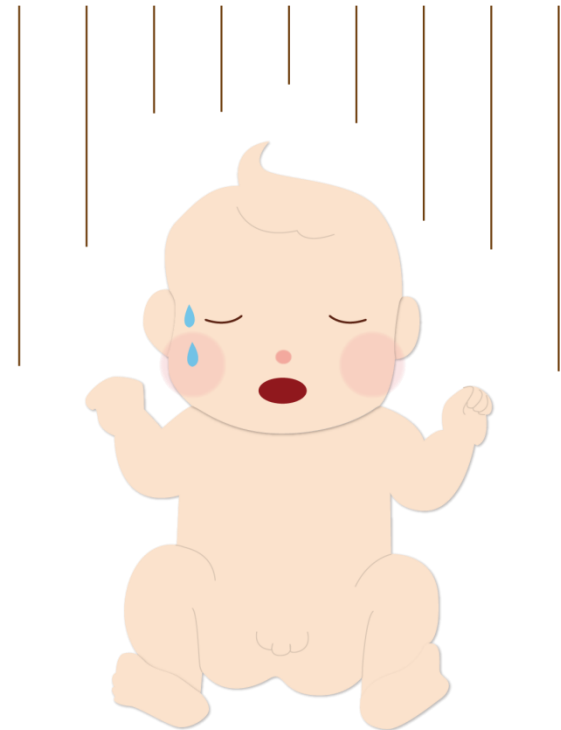
ですから出産直前に症状が出れば、帝王切開の適応となります。

妊娠中に注意したい感染症について

いずれの感染症も妊娠中に感染しないように注意が必要になります。
具体的には

- うがいの励行と手洗いの徹底(特に動物との接触後やおむつ交換の後など)
- ペットのトイレを掃除、土いじりをする時には手袋をつける
- 生肉は食べないようにする
- 人混みへの外出は控えるようにする
- マスクの着用を心がける

などの心がけが大切です。



妊娠中に注意したい感染症について

また、サイトメガロウイルスやヘルペスは1度感染すると再発する事もあり、その時、まれに赤ちゃんへ感染する事もあります。
ストレスや疲労、睡眠不足、風邪などで体調が悪い時などに再発しやすいので、体調管理にも十分注意しましょう。
これらの感染症は血液検査等で感染の既往や可能性を推測する事もできますが、結果の解釈が困難な場合もあります。
気になる方は担当医によくご相談ください。

